

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002352		
法人名	特定非営利活動法人 いきいきライフ協会		
事業所名	グループホームいきいき東豊中 (1階)		
所在地	大阪府豊中市熊野町3丁目3番47号		
自己評価作成日	平成27年4月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年5月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、今年で12年目を迎えます。12年の月日が流れご利用者の状態も大きく変化しています。しかし、変わらないものが一つあります。それは、ご利用者の「笑顔」です。いきいき東豊中では、心からご利用者と寄り添い楽しい時も辛い時も、それを共感する事でご利用者一人ひとり、本当の笑顔と出会う事ができています。又地域の皆様へ認知症の理解として、関西大学名誉教授による認知症についてのセミナーを開催し大反響にて理解を得る事が出来ました。今年も、又四季折々での楽しい行事と職員の大きな愛で、ご利用者の心の奥底にある、本当の笑顔を引き出せるよう努めて参ります

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに(徒歩1分)歴史のある八坂神社、目の前が中学校という文教的なロケーションに事業所がある。通学時や運動場から元気な生徒たちの声が聞こえ、大みそかには初もうでの人で賑わうであろう様子が推察できる。特徴としては、職員の手づくりで提供される「食」へのこだわりがある。次に、メンタルなケアへの取り組みがある。回想法、書道、脳トレ、健康リハビリ等々、代表自ら講師を買って出て行われている。職員は常に笑顔で家族に対応し、事細かに報告する様子は「さすがプロだな」と家族は思っている。生き生きとしている職員の様子が印象に残る事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げたものだけにならないように、適所に掲示し実践につなげている。「ご利用者にとって一番良い暮らし」を支援する為、実際に繋げている	「私達は、その人にとって一番良い暮らしを支援します。保健、福祉、医療の連携を図り、地域や住民とのふれあいで、おだやかな暮らしをしえんします。」という理念が職員に徹底されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、特に近隣の中学校や神社の行事には、毎年参加できている	地域福祉行事への参加があり、隣の豊中市立第15中学校と交流(運動会、福祉体験)を持っている。法人としても積極的な高齢者地域福祉活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催にて、関西大学名誉教授による、認知症についてのセミナーを開催し、地域住民からたくさんの理解を得る事ができ、その後実践にも繋げる事ができている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にて報告や情報交換は豊富にあるが、実際にサービス向上の為の結果につながることは、まだ少ないと思われる	自治会、老人会、民生委員、家族と行政の担当者がメンバーとして開催されている。研修を兼ねた運営推進会議も事業所共催で開催されている。	地域密着サービス事業所の運営ポイントに運営推進会議が位置付けてあるので、概ね、2か月に1回の頻度での開催が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にて市役所役員、地域包括支援センター、地域関係者へ事業所の実態を報告し意見アドバイスを受けている。又電話での相談は随時行っている	豊中市役所の担当窓口、地域包括支援センターなど行政との報告・相談のパイプを持っている。事業所の現状報告、事例相談、地域との関係などについて相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リビング扉とベランダへつながる扉は、安全を確保し、できるだけ自由に行ききできるよう開放している	鍵をかけない支援等利用者の安全を十分に配慮した上で、身体拘束をしないケアについて、利用者個々の状態に応じて職員間で話し合いながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、告知義務にて防止に努めている。又言葉の虐待についても、見逃さないように研修等で認識を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度等については、家族様と話し合い個々の必要性を重視している。又家族様が安心してそれらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて十分な説明を行っている不安や疑問についても理解されるまで説明をおこない、納得頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、必ず近況報告を行い、個人日報を公開している。又「言いにくい事」については、意見箱を設置し、対応できる様になっている	ホーム便り「いきいきタイムス」を発行して事業所の様子、職員異動、活動予定、家族への御礼の記事を掲載している。家族訪問時には家族の相談事を聞くようにしているので、家族もその点を評価している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、職員の意見等があれば管理者、リーダーと話し合い代表者へ提案し、即時対応している	リーダーが月初にフロアー会議の開催日を連絡する。原則として全員参加である。利用者の状態により見守りが出来る場所(リビング)で会議する場合もある。全員への徹底を大切にしてチームワークを維持している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員雇用形態就学条件を考慮し、且つ本人の能力、努力を評価した賃金体制としている。又厚生労働省実地の、処遇改善事業の導入により職員の処遇改善を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に合わせた、研修の参加を促し、その研修報告は会議等でおこない、職員全員で認識を高めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各グループホームへの呼びかけをおこない、認知症セミナーを開催した。その後も交流する機会をもうけて、セミナーを継続する事ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に受容体制で聞き取りをおこない、ご利用者の立場に立って全て受け止め、一緒に楽しみ事を探しながら、安心した信頼関係がつけられる様に支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や悩みを抱えている家族様に対し、その人の立場に立って考え、又本音の部分を見逃す事の無いように、慎重に傾聴しながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様とご利用者との、悩みや不安はそれぞれ違うので互いの思いを心から傾聴し、今一番何が必要なのかを見極めて、多様な方向からの支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の性格や個性を十分に理解し、暮らしの中で出来る事出来ない事を見極め、共に過ごせる関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、どんな些細な事も報告し、又相談しながら「利用者にとって一番良い暮らし」を一緒に支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の事を、忘れてしまわないように、普段の会話の中に思い出を入れ込みながら、意識し支援している。又面会時に混乱が見られる時は、状況に応じて、立ち合いフォローしている	家族の協力を得ながら、生活歴の聞き取りを入所の段階で行って本人のプロフィールを把握している。馴染みの人や場所が判れば、介護に活かすように努めている。	高齢である利用者の現在は過去の積み重ねの上に存在していると思われる。これからの介護に活かせるように生活歴の情報収集が期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や個性を十分に理解し、不穏な思いの無いように、タイミングを図り自然な関わりが持てるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご利用者の面会に出かけたり、家族様からの相談等があれば、一緒に考え解決出来るよう支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の個性や性格をふまえて、その日の気づきを必ず申し送りノートや口答で伝え、チームケアにて情報を繋げている	本人が望む事業所での暮らし方が支援できるように、本人及び家族の意向を踏まえ、介護計画書にも記載したり、申し送りで他の職員にも伝える等、職員間での情報の共有も図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の心が見えにくい場合は、家族様等より情報を徴収し、ご利用者にとって一番良い暮らしを提供する為の支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の暮らしは毎日が始まりで、常にその日の現状を把握し、今できる事を見つけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度の会議で、問題点や改善点を話し合い、又ご利用者や家族様の、本音の部分の情報収集し、ご利用者にとって、一番良い暮らしが出来る為の計画書を作成している	本人の状況を説明し、家族の希望を確認した上で、職員が支援方法を相談し、医師の判断を入れて、目標設定、具体的な支援方法を設定している。メンタルなケアとして回想法なども試行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、毎日個別の記録を取り、気づきについては、職員全員が、申し送りノートや口答にて情報共有・実際に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にその時の状況に応じて対応し、場合によっては、ボランティアの要請や近隣住民の協力を得る事ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力ボランティアの来訪(ギター演奏・紙芝居・手品・舞踊等)や、地域行事が盛んでありご利用者が、それぞれ興味のある行事に参加し、地域住民との交流も支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族様の希望にて、かかりつけ医がある場合は遠方でも通院している。又家族様の都合が付かない場合は、職員が付き添い同行をおこなっている	本人及び家族の希望に沿ってかかりつけ医を選定し、通院支援も家族の状況に応じて対応している。同行した際は医師との連携を密にして、利用者の健康状態の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診クリニックの定期的な受診や、24時間体制で個々ご利用者の状態を伝える事ができ、適切な指示を受けることができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医への緊急入院ではお互いのサマリー等の情報交換がスムーズにおこなっている又近隣には緊急時に受け入れ可能な病院も多く安心して治療を受ける事ができている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様の希望やご利用者の状態を把握し又医療との連携をとりながら、終末期の看取り介護に対しての体制を整えている	利用者が重篤の状態になった場合の、事業所の対応について家族に説明して同意を得ている。現実に対応が必要になった際に、再度、家族の意向を確認し、希望に沿った対応ができるように事業所の体制を用意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で、毎年心配蘇生法や、応急手当の研修等を施行している。職員は定期的に参加し認識を高めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に、ご利用者はどのような行動を取るのか想定できない為、ご利用者の状況に応じて臨機応変に対応できる様、マニュアルを作成し訓練を施行している	職員一人一人の災害への意識(心構え、いざという時にあわてず行動できるように)付けに重点を置いている。消防署の指導を得て定期的な訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを徹底し、その時のご利用者に合わせて対応をおこなっている。特に排泄誘導ではご利用者の心を傷つける事のないように、注意しながら声かけをおこない、無理強いせずおこなっている	職員の利用者へ接している様子は、親しみの中にも、先輩たちを尊敬した気持ちがあり、言葉遣いやわかり易さにも配慮がされ、職員個々の個性もあり良い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分な意思疎通が出来ないご利用者へは、ポデータッチや、手を握りながら声かけを行い、表情を見極め、自己決定できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間は、自己決定できるように促しご自分のペースで、過ごして頂けるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容では、ご本人の希望で、随時カット・カラー又眉毛カット・メイクもおこなえ喜ばれている。更衣時も、ご利用者がその日に着たい洋服を着て頂き、個々の個性を生かしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者や家族様の情報にて、出来るだけ意向にそった献立を立てている。又今できるお手伝いを、見極めて職員と共におこなえている	「介護は食にあり」が実践されている。「ここの食事は美味しい」事業所である。「美味しい食事を食べて頂く」職員全員の気持ちがこもった献立・調理・味付けである。	美味しい食事を味わっている利用者にも、オプションとして食材・調理方法などを口頭にて時々説明しては如何でしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量や栄養のバランスは手作りにて確保できている。そして、その日のご利用者の状態により器を変えたり、時間を決めずに介助等をおこない、臨機応変に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、一人ひとり口腔ケアをおこない、できない所は、職員が介助している。又ミキサー食のご利用者へは、汚れや臭いが残らないように、口腔ウエットにてケアをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が見られてもパットを出来るだけ使用せず、ご利用者の排泄パターンを把握し、排泄誘導をおこなっている。声かけ時も、ご利用者の心を傷つけないように配慮し支援している	自立したトイレでの排泄習慣が継続できるような支援を基本として、記録による排泄リズムの把握、事前の声掛けをしてパットの使用を最小限にするように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族様からの情報にて個々の排泄リズムを把握している。又排泄チェックにて、便秘になる前に、飲食物の調整や運動等を個別に行い、予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者のその日の体調や気分を受け入れ、順番を決めずに臨機応変に入浴をおこなっている。又全介助のご利用者へは、二人介助にて安心・安全に対応している	入浴は利用者の希望を優先して対応している。気分や体調を考慮しながら、清潔保持と共に入浴の楽しみ、寛ぎを味わってもらうように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日のご本人の体調をみて、休息を促している又日中は穏やかな環境を作り、夜間帯には混乱せず、安心して入眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	殆どのご利用者は、服薬の認識は無く、その為職員は、目的や用法等を声にだして確認し、二人体制(四つの目)で、ミスが無いよう慎重におこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様からの情報や、ご利用者との会話の中から、役割や楽しみごとを見つけ出し、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。特に嗜好品については、食べたい時にいつでも出せるよう個々に応じてストックしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様との、外出・外泊はもちろん定期的に戸外へ出かけている。又毎年回転寿司への外食もおこない家族様も参加し、ご利用者にとって楽しみの一つとなっている	すぐ近くに中学校、緑の多い神社があり、周りも交通量が少なく、ちょっとした散歩に恵まれた立地である。家族と一緒に外出するなど、出来る限り外気に触れる機会を持つように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望にて、おこずかいを持ちたいご利用者には、高額ではないかぎり、所持してもらっている又買い物へ出た場合は、見守りの元、自己にて支払えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や知人からの電話には、ゆっくり話して頂く様に居室へ誘導し繋げている。又ご本人からの希望があれば、随時連絡が取れるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレから、浴室へつながる扉があり、汚染時には不快や混乱をまねくことなく、素早く対応できるようになっている。又踊り場にある和風スペース空間は、混乱や不穏時のご利用者にとって、気分転換ができる場所になっている	リビング、廊下も適度なスペースが確保され、見守りの際の死角になるような場所もないので家族も安心できる。トイレ側から浴室に行けるようになっており、羞恥心へのハード的な配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適所に設置しているソファは、気の合う同士や又一人でのんびりと過ごす場所となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には、危険なもので無い限り持込の制限は無く、本人が穏やかに過ごせるように工夫している。又職員となじみのものを、見つけることで、楽しみのある、居室になるよう努めている	家族の協力を得ながら、出来るだけ本人が使用していた物や、大事にしていた備品などを部屋に持ち込んで頂き、安心して過ごしたり睡眠できるよなしつらえとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行事等で2階への移動時に、ご利用者のその日の状態を見極めて、階段を使用し訓練をおこなっている		